
愛知県田原市 御中

小中学校の在り方に関する意識調査業務 学齡児童及び学齡生徒数推計報告書

2025.12

目次

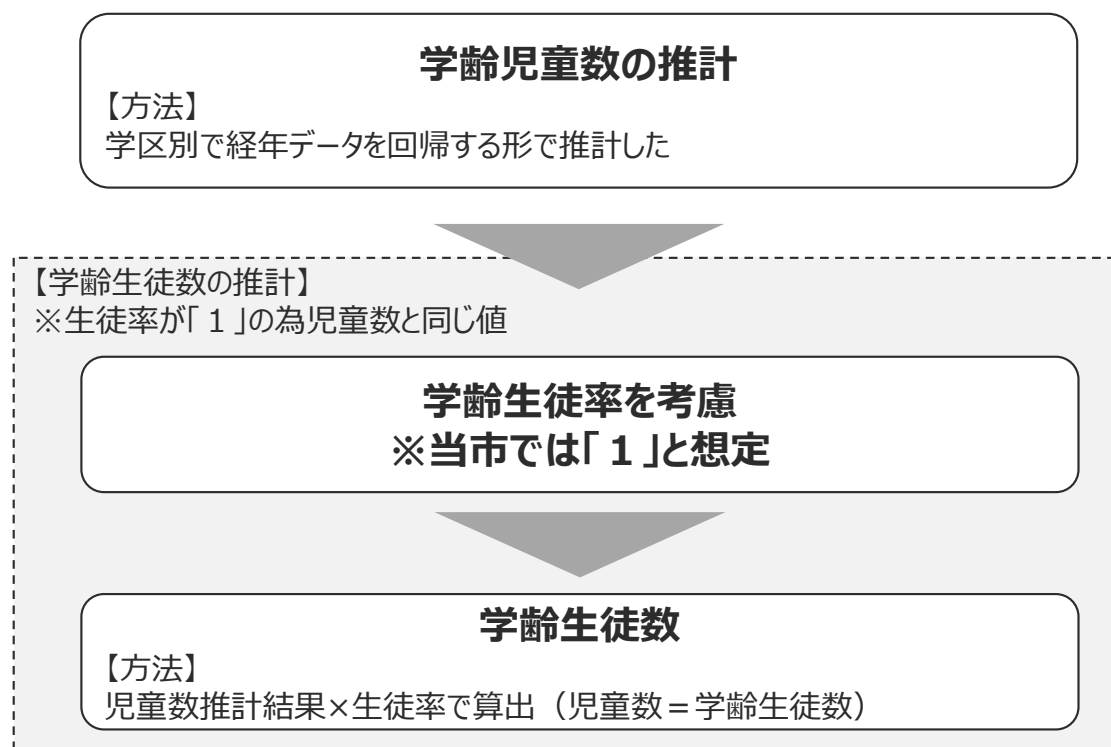
1. 背景及び目的	2
2. 推計方法	3
3. 推計結果	8
3-1. 校区別の算出結果-小学校区-	8
3-2. 校区別の算出結果-中学校区-	17
4. まとめ	19
(参考資料) 算出シート	

1. 背景及び目的

本市の児童生徒数は年々減少傾向にあり、加えて学校施設の老朽化が進んでいる。子どもたちにとってより良い教育環境の見直しや整備が求められているなか、令和元年に策定された「田原市学校未来創造計画」の見直し及び今後の学校の在り方等について検討するための基礎資料として、今後の児童生徒及び児童人口の推計を実施する。

2. 推計方法 ①全体像

- 学齡児童数の推計は学校区/0-14歳年齢人口の経年データを指数関数で回帰延伸する形で推計した。
- 学齡生徒数は、児童数と同じとして取り扱った。



2. 推計方法 ②児童数推計の詳細

- 児童数は以下の流れで行った。全体の人口推計値は当市全体の人口推計値（総合計画にて推計した値）と一致する形とするため、学校区別の内訳を実績値の回帰延伸で算出した結果を用いて算出する形とした。
- また、推計には2016～2025年の過去10年の実績データを使用した。一部の学校区においては宅地造成の影響等が見られたため、個別調整を行った。

0-14歳人口推計

【方法】
2016年～2025年までの実績値を元に2070年までの人口を指数関数で回帰延伸し算出 ※一部学校区において個別調整を実施

※個別調整の実施

田原南部小学校区及び清田小学校区では宅地造成等の一時的な変化の影響が大きく出ている為、指数近似において算出される減衰率を市全体の値と平均を取る形で変化のトレンドを緩和した推計を行った。

学校区別の人口割合を算出

【方法】
学校区別の人口割合を算出

市全体の人口推計値と整合

【方法】
市全体の人口推計値（0-14歳）に学校区別の人口割合をかける

学齢児童数の推計

【方法】
0-14歳人口推計値に小学生は6/15を、中学生は3/15をそれぞれかける

(参考) 算出単位の検討

- 学校区別の他に①児童数減少率で3グループ、②市街化区域を含む又は含まないの2グループ、③市街化区域を含む又は含まないと旧田原町と旧赤羽根町・旧渥美町を分けた3グループ、④旧田原町・旧赤羽根町・旧渥美町に分けた3グループ、の4つのパターンでそれぞれ学校区をまとめて推計する方法についても検討を行った。
- グループごとに指数近似を行った際の減衰率を算出したうえで、減衰率の算出単位の検討した。

学校名		R7→R13 減少率
1	六連小学校区	36.7
2	神戸小学校区	30.7
3	大草小学校区	56.2
4	田原東部小学校区	36.2
5	田原南部小学校区	64.5
6	童浦小学校区	29.0
7	田原中部小学校区	18.2
8	衣笠小学校区	19.9
9	野田小学校区	44.7
10	高松小学校区	44.9
11	赤羽根小学校区	43.6
12	若戸小学校区	40.0
13	亀山小学校区	27.0
14	中山小学校区	40.6
15	福江小学校区	55.8
16	清田小学校区	21.4
17	泉小学校区	15.3
18	伊良湖岬小学校区	41.7
合計		33.9

グループ1 (減少率35未満)
97.9%

グループ2 (減少率35～45未満)
95.9%

グループ3 (減少率45以上)
97.6%

学校名	
1	六連小学校区
2	神戸小学校区
3	大草小学校区
4	田原東部小学校区
5	田原南部小学校区
6	童浦小学校区
7	田原中部小学校区
8	衣笠小学校区
9	野田小学校区
10	高松小学校区
11	赤羽根小学校区
12	若戸小学校区
13	亀山小学校区
14	中山小学校区
15	福江小学校区
16	清田小学校区
17	泉小学校区
18	伊良湖岬小学校区

グループ1 市街化区域を含む(市全体)
97.9%

グループ2 市街化区域を含まない
95.9%

(参考) 算出単位の検討

- 学校区別の他に①児童数減少率で3グループ、②市街化区域を含む又は含まないの2グループ、③市街化区域を含む又は含まないと旧田原町と旧赤羽根町・旧渥美町を分けた3グループ、④旧田原町・旧赤羽根町・旧渥美町に分けた3グループ、の4つのパターンでそれぞれ学校区をまとめて推計する方法についても検討を行った。
- グループごとに指数近似を行った際の減衰率を算出したうえで、減衰率の算出単位の検討した。

学校名	
1	六連小学校区
2	神戸小学校区
3	大草小学校区
4	田原東部小学校区
5	田原南部小学校区
6	童浦小学校区
7	田原中部小学校区
8	衣笠小学校区
9	野田小学校区
10	高松小学校区
11	赤羽根小学校区
12	若戸小学校区
13	亀山小学校区
14	中山小学校区
15	福江小学校区
16	清田小学校区
17	泉小学校区
18	伊良湖岬小学校区

グループ1 市街化区域を含む (旧田原町)
98.0%

グループ2 市街化区域を含む (旧赤羽根町・旧渥美町)
97.4%

グループ3 市街化区域を含まない
95.9%

学校名	
1	六連小学校区
2	神戸小学校区
3	大草小学校区
4	田原東部小学校区
5	田原南部小学校区
6	童浦小学校区
7	田原中部小学校区
8	衣笠小学校区
9	野田小学校区
10	高松小学校区
11	赤羽根小学校区
12	若戸小学校区
13	亀山小学校区
14	中山小学校区
15	福江小学校区
16	清田小学校区
17	泉小学校区
18	伊良湖岬小学校区

グループ1 旧田原町
97.9%

グループ2 旧赤羽根町
97.8%

グループ3 旧渥美町
95.2%

(参考) 算出単位の検討

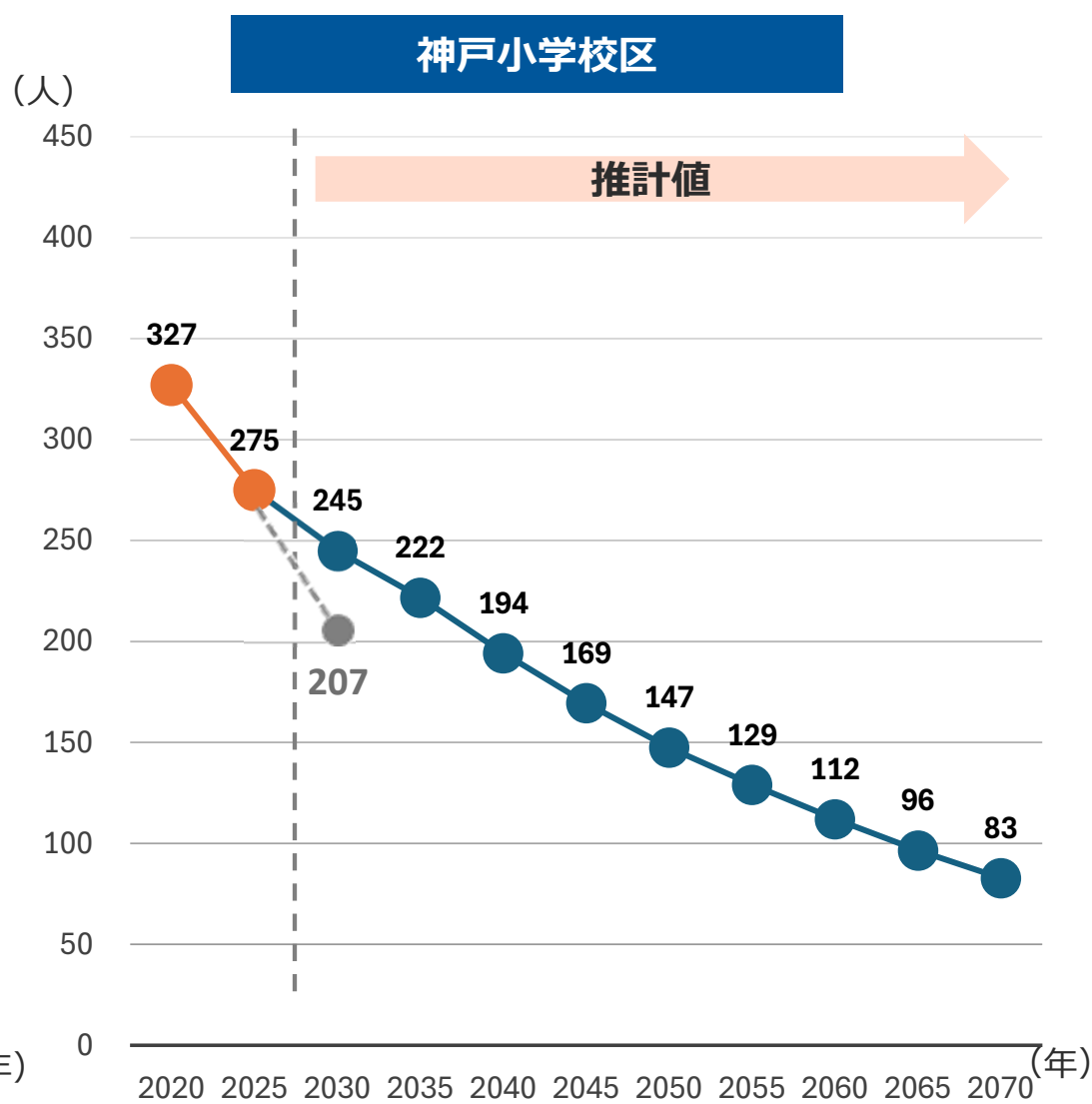
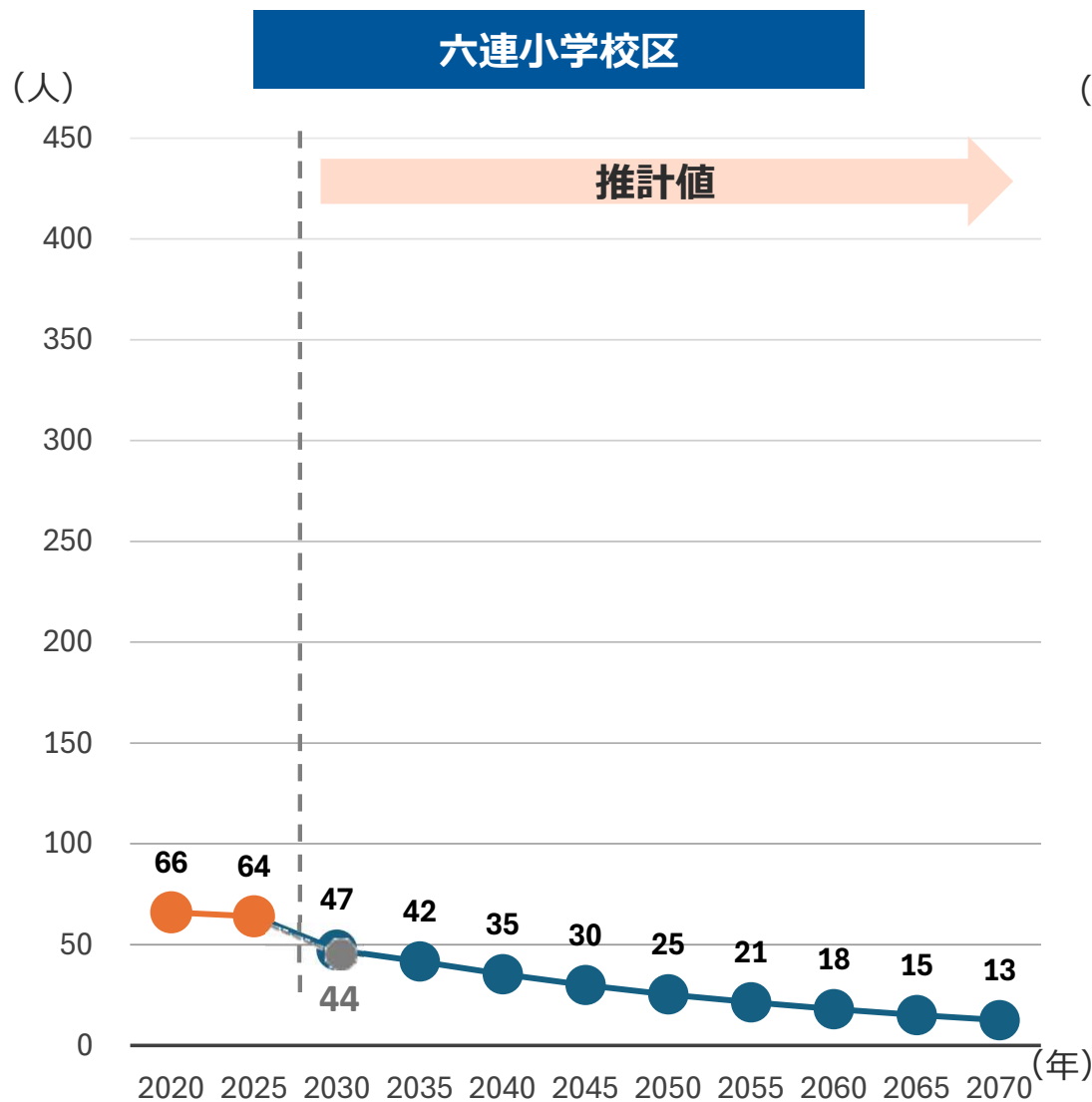
- ①の児童数減少率でグループ分けし、推計値を算出した結果、校区ごとのバラつきが大きく、また実際に児童数が減少している校区の将来推計値が大きく増加するなど、実態と異なる結果となった。
- ②、③、④については、全て学校区別の減衰率で推計値を算出した場合と数値に大きな差異はなく、それぞれのグループで学校区をまとめる明確な理由が確認できなかった。



以上のことから、本推計値については、P. 3～4に記載のとおり、学校区別の内訳を実績値の回帰延伸で算出した結果を用いて算出する形を採用している。

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

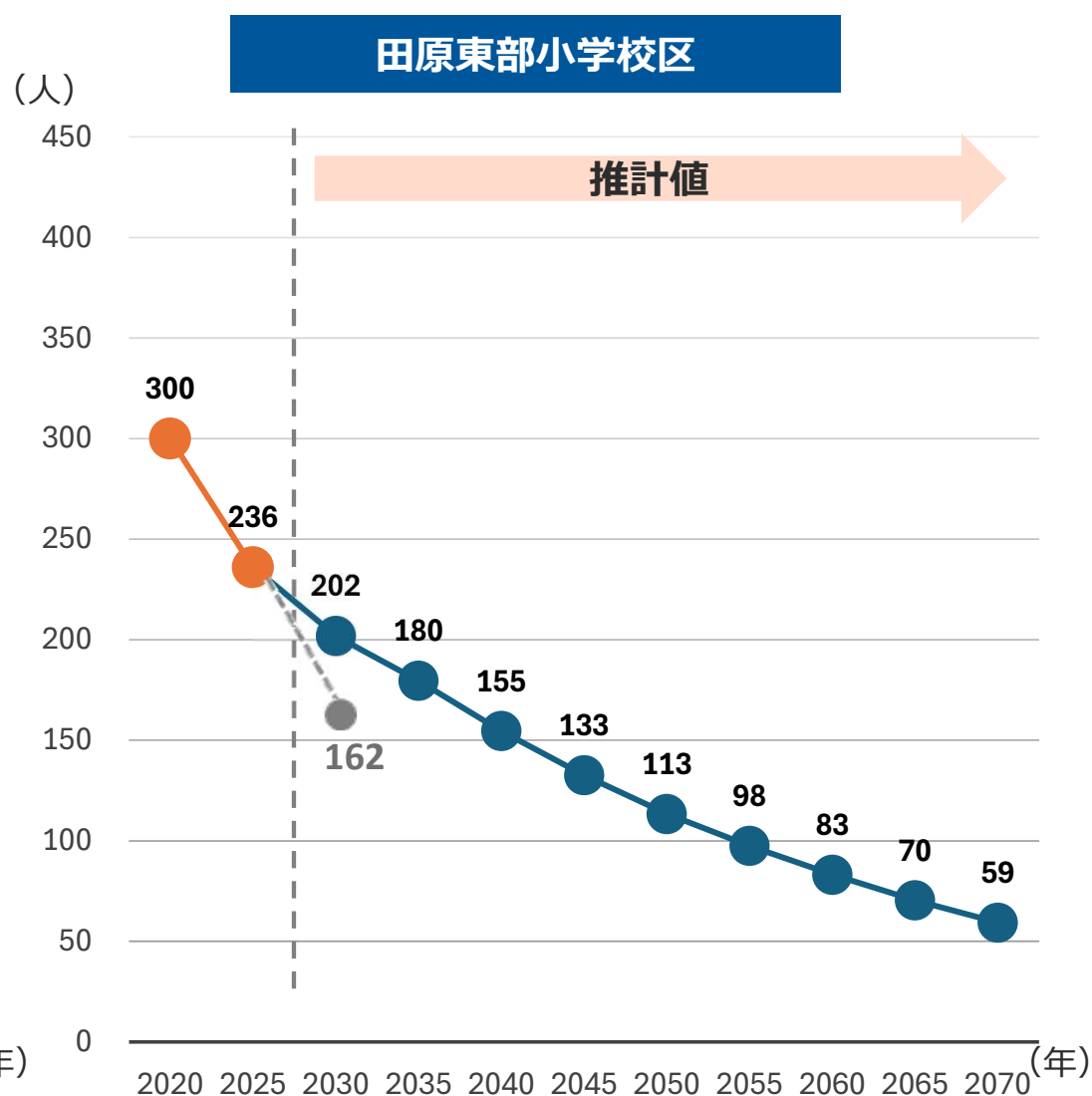
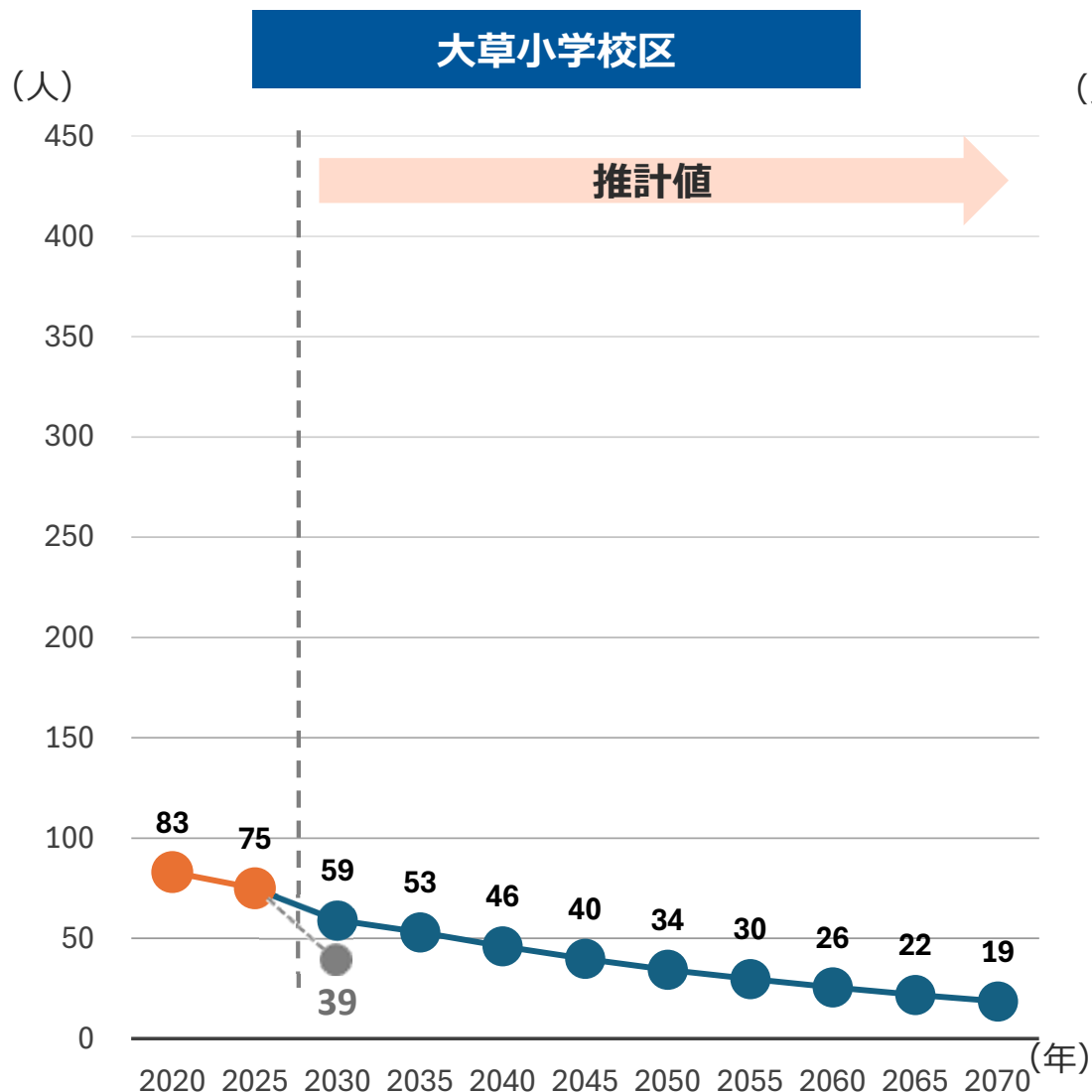
- 六連小学校区では2070年時点で13人まで減少、神戸小学校区では83人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

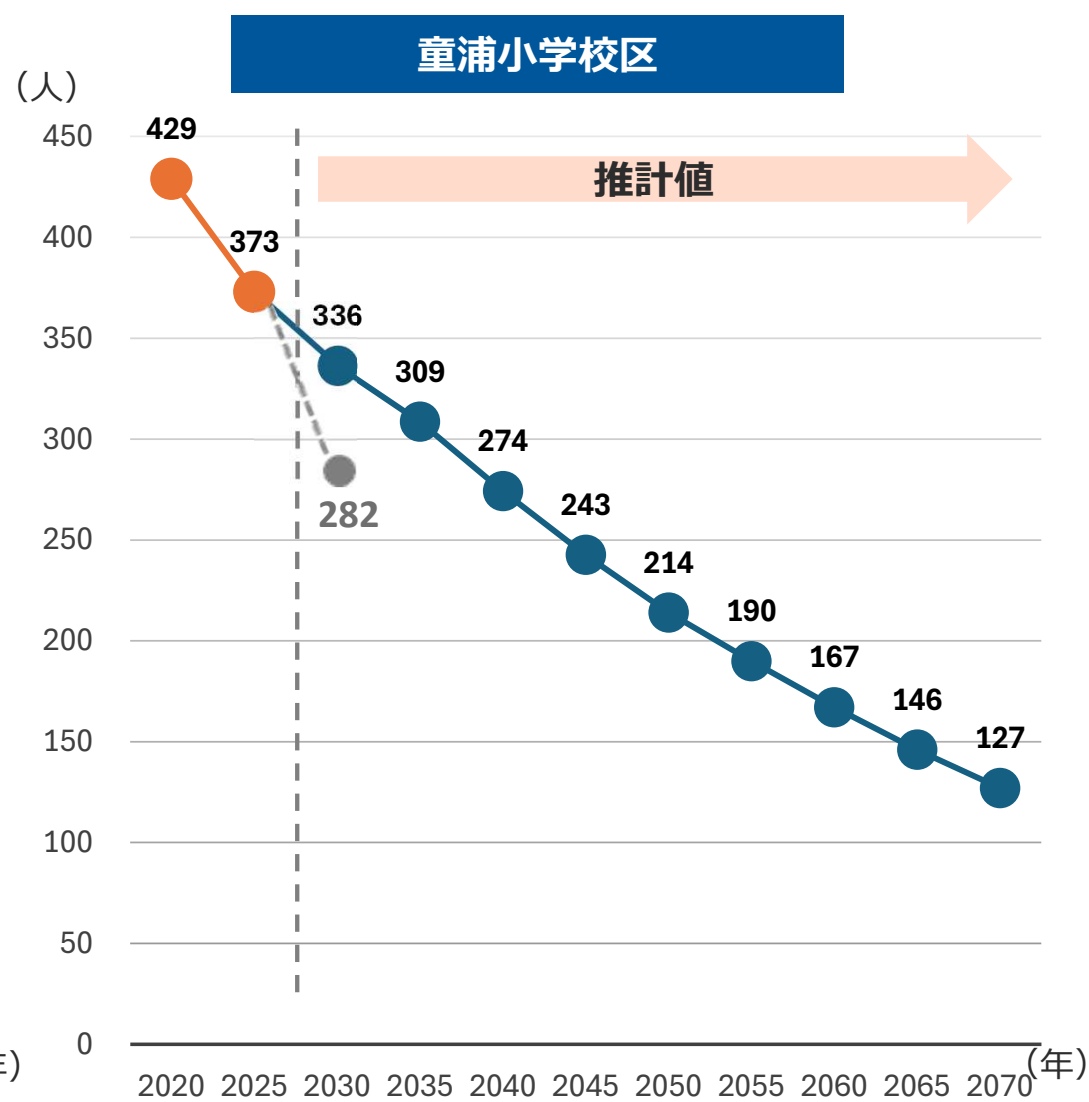
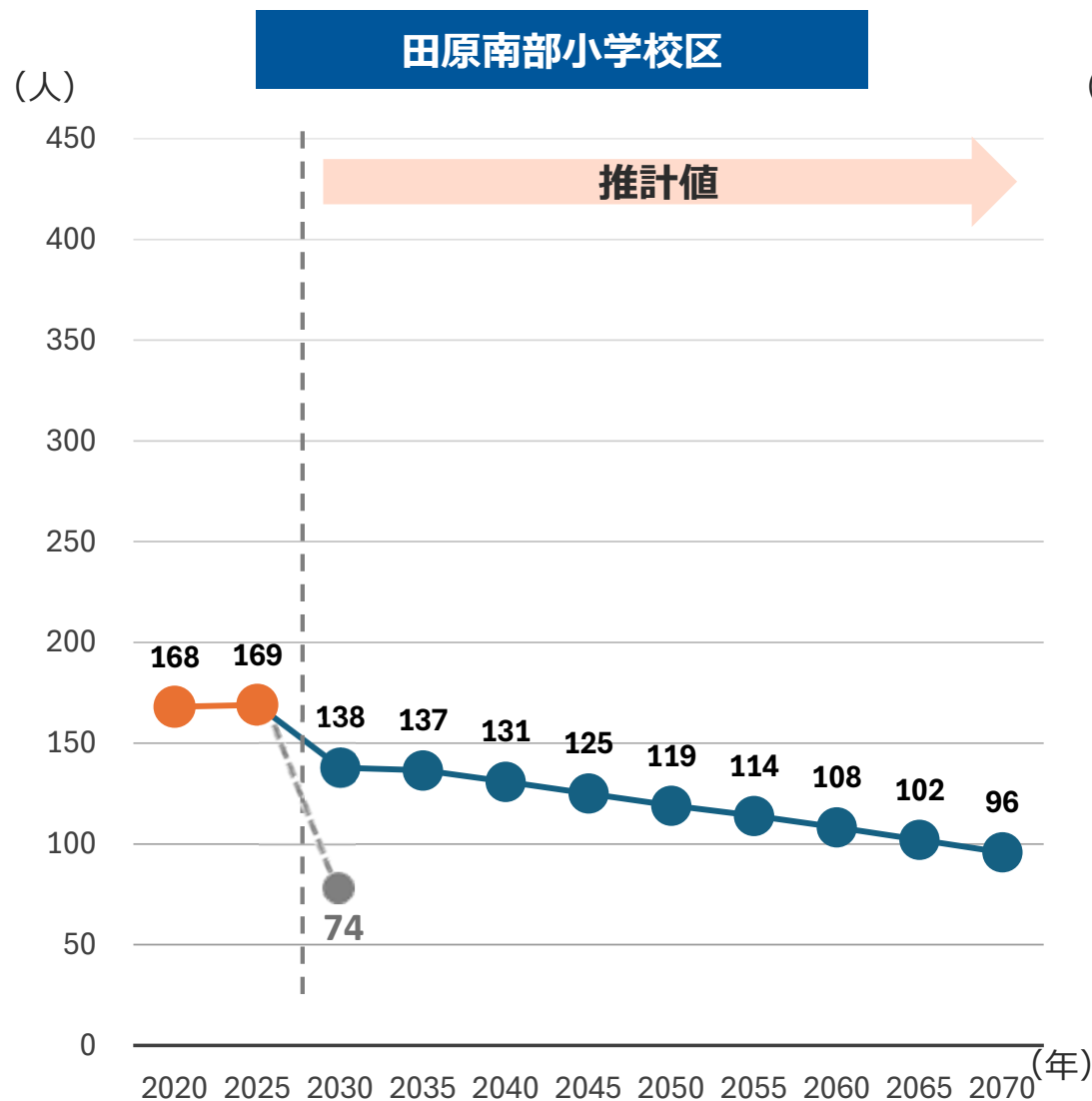
- 大草小学校区では2070年時点で19人まで減少、田原東部小学校区では59人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

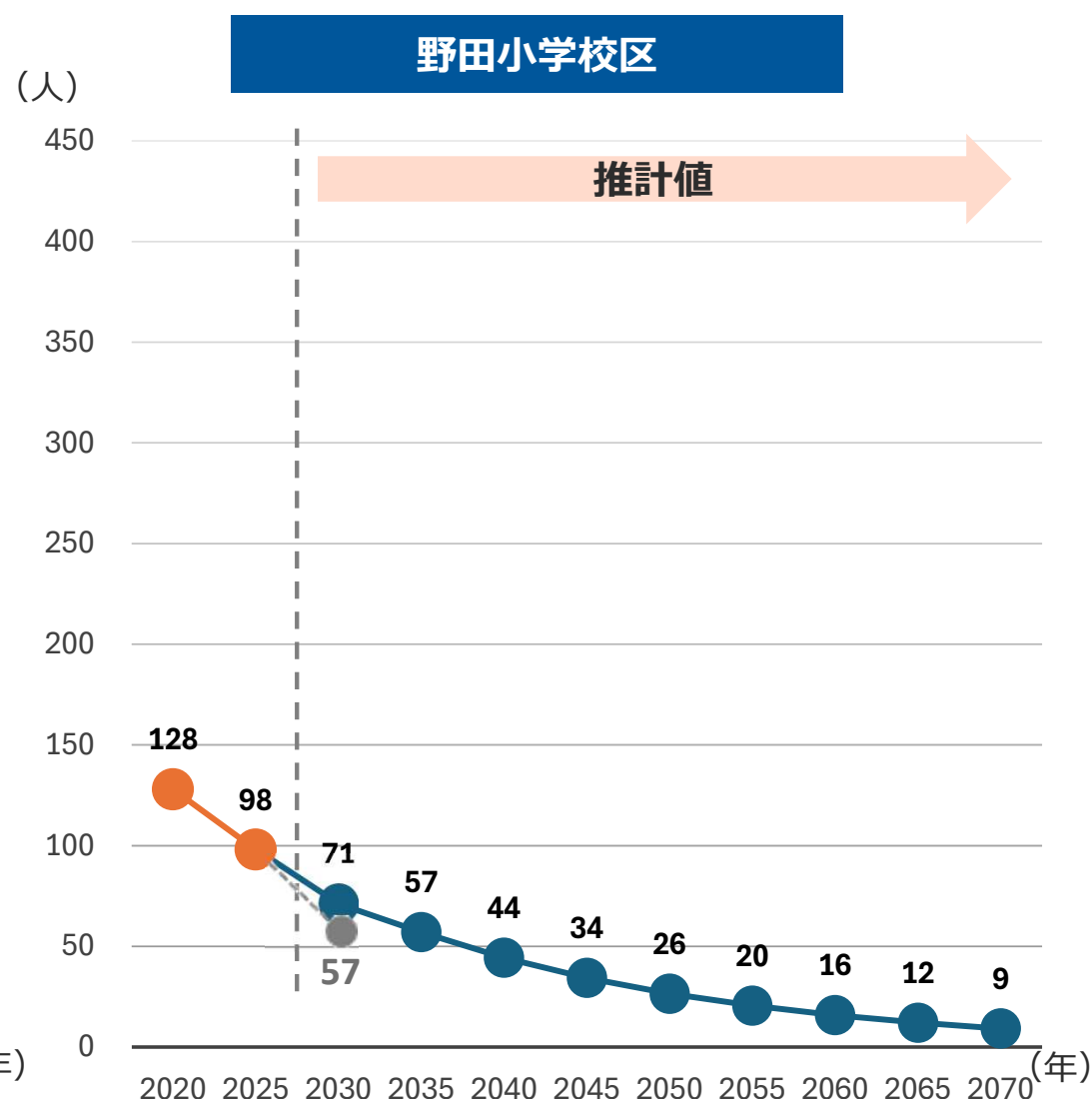
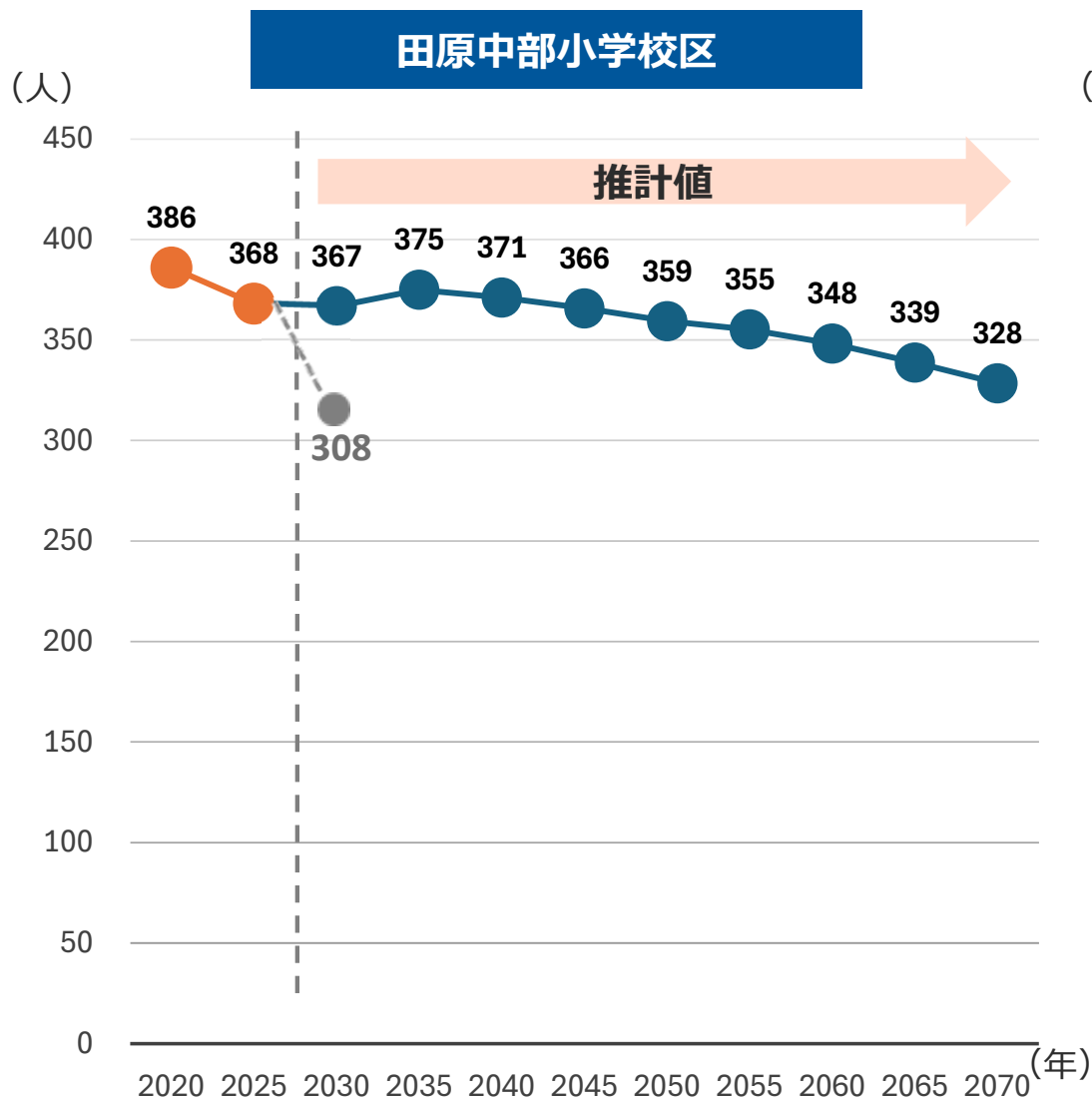
- 田原南部小学校区では2070年時点で96人に減少、童浦小学校区では127人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

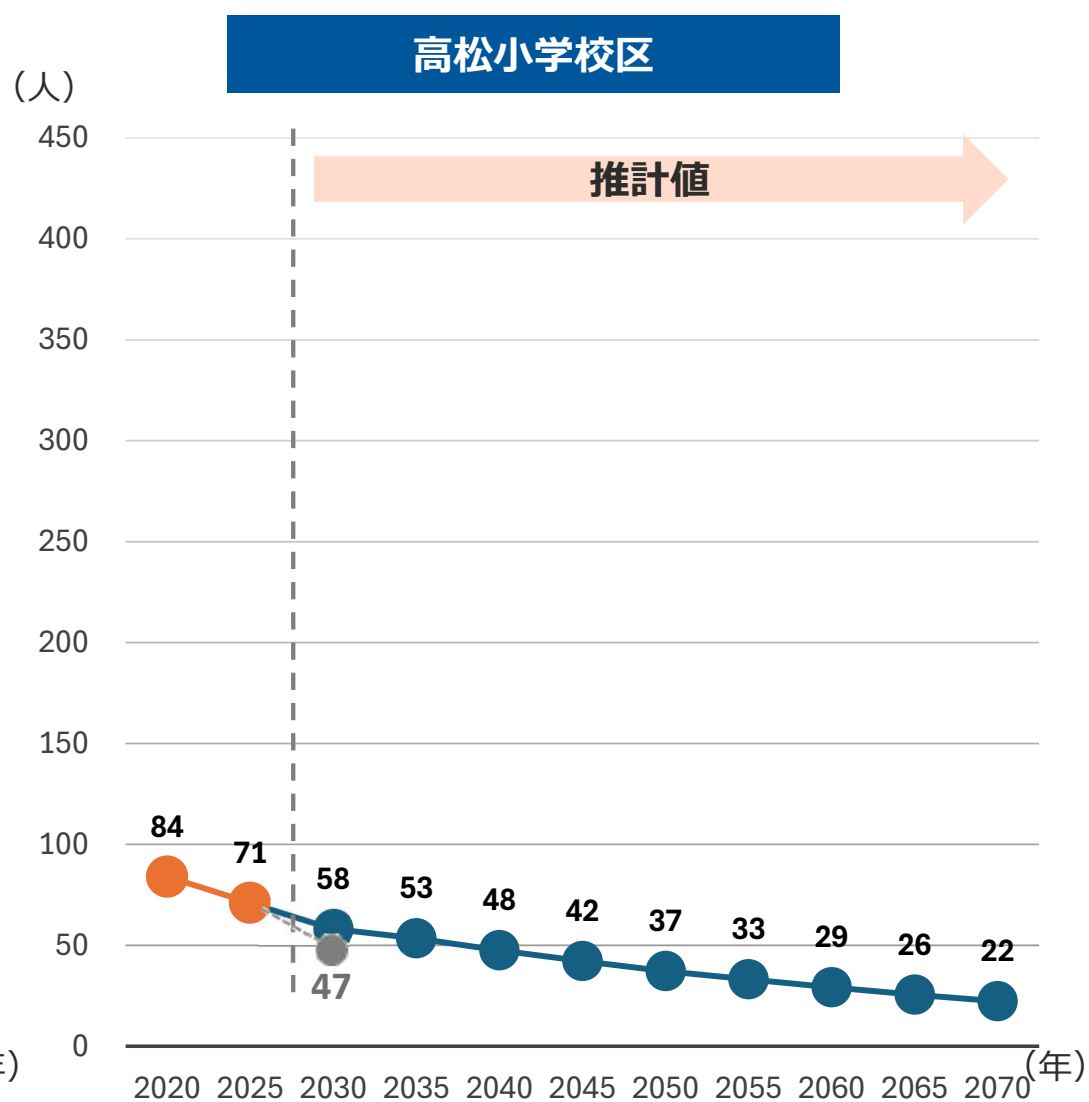
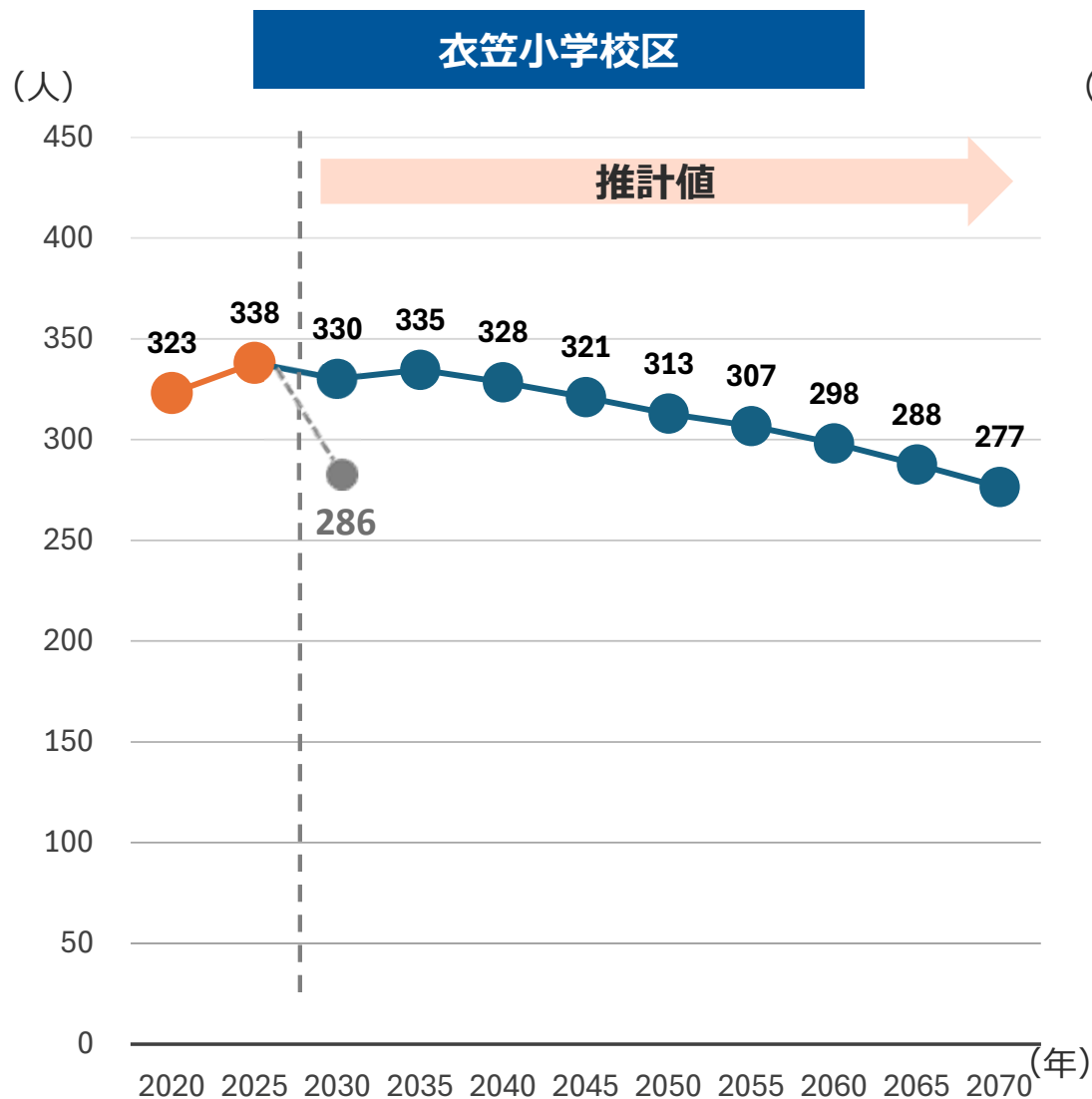
- 田原中部小学校区では2070年時点で328人まで減少、野田小学校区では9人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

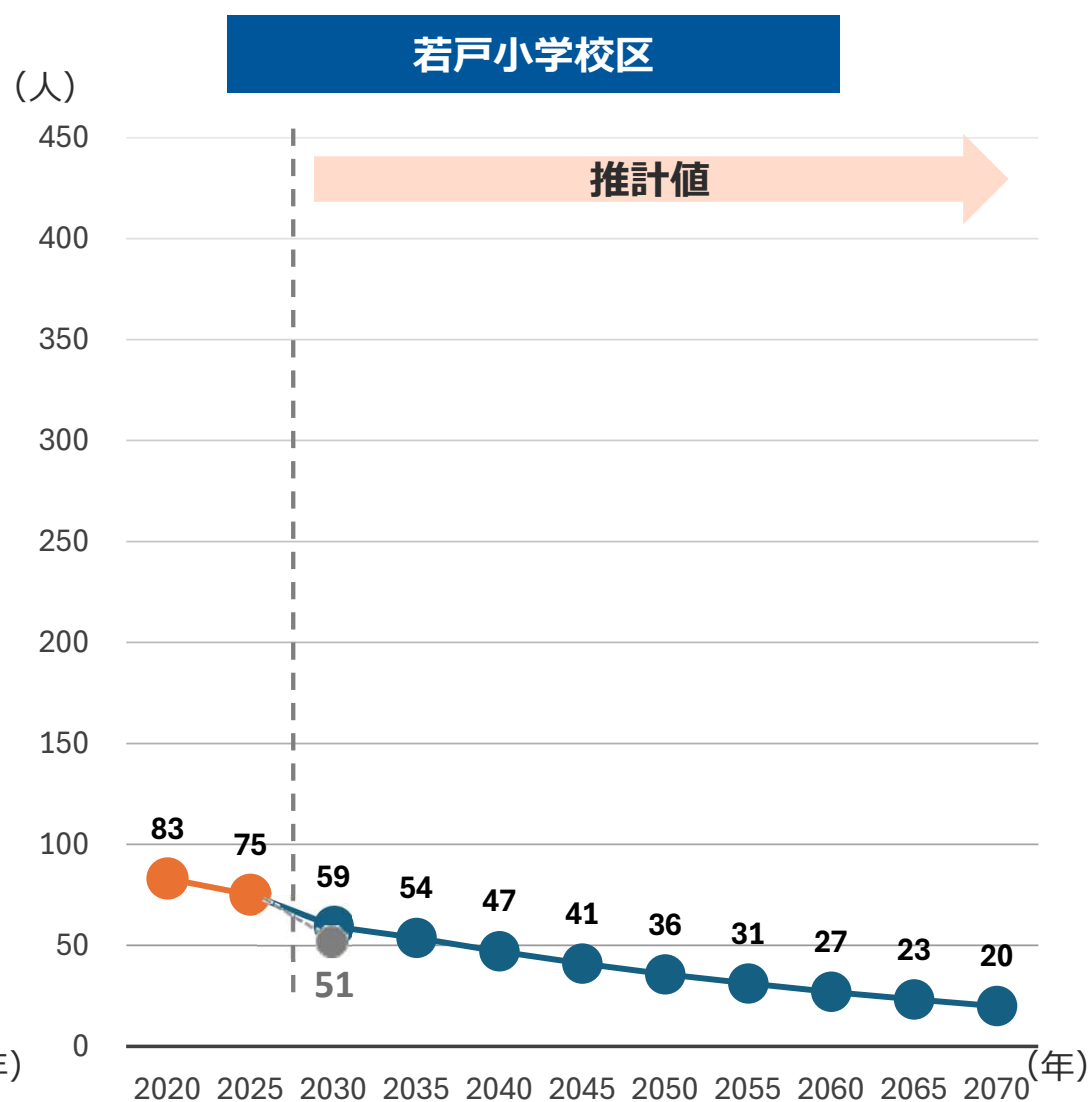
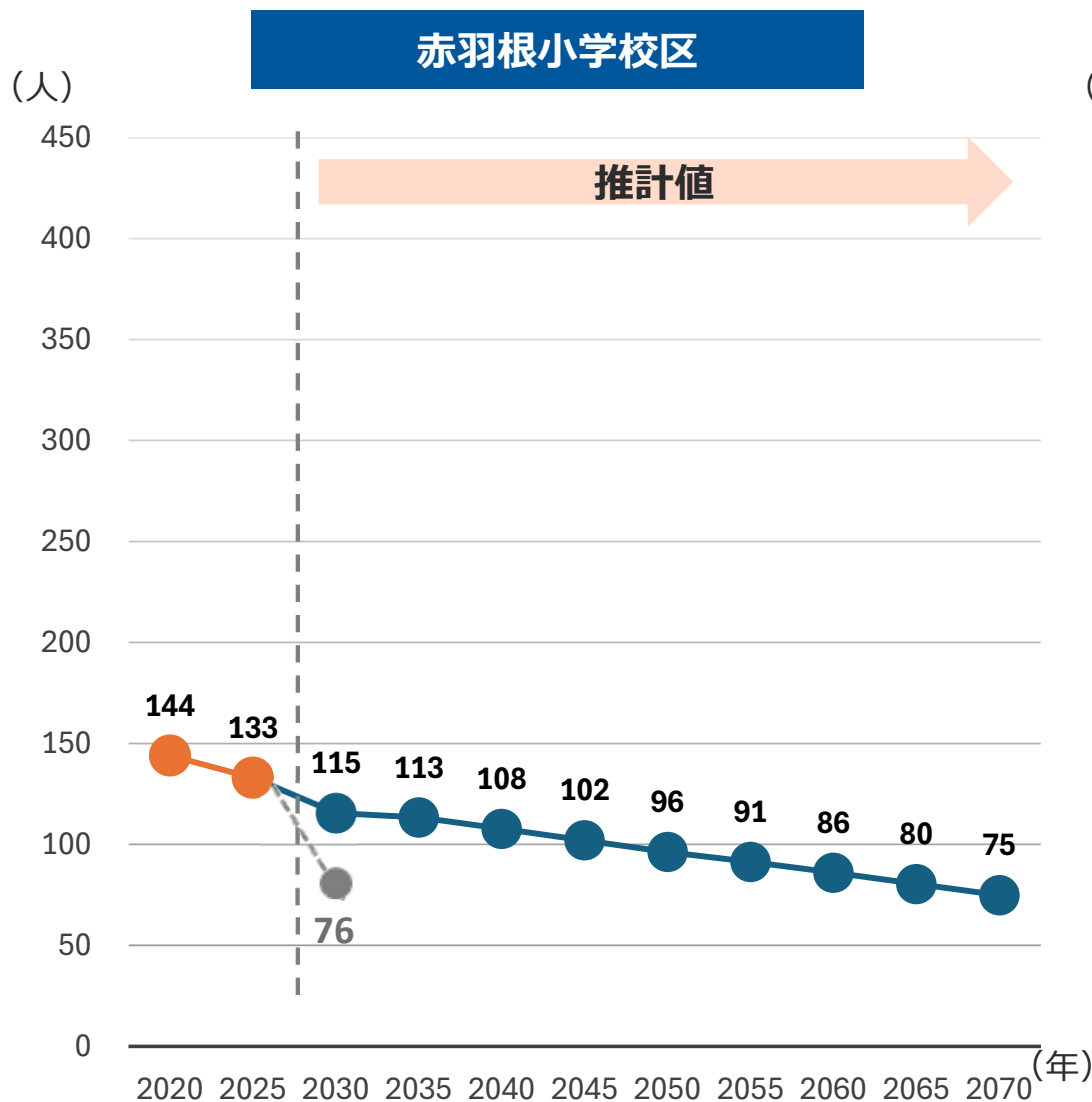
- 衣笠小学校区では2070年時点で277人まで減少、高松小学校区では22人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

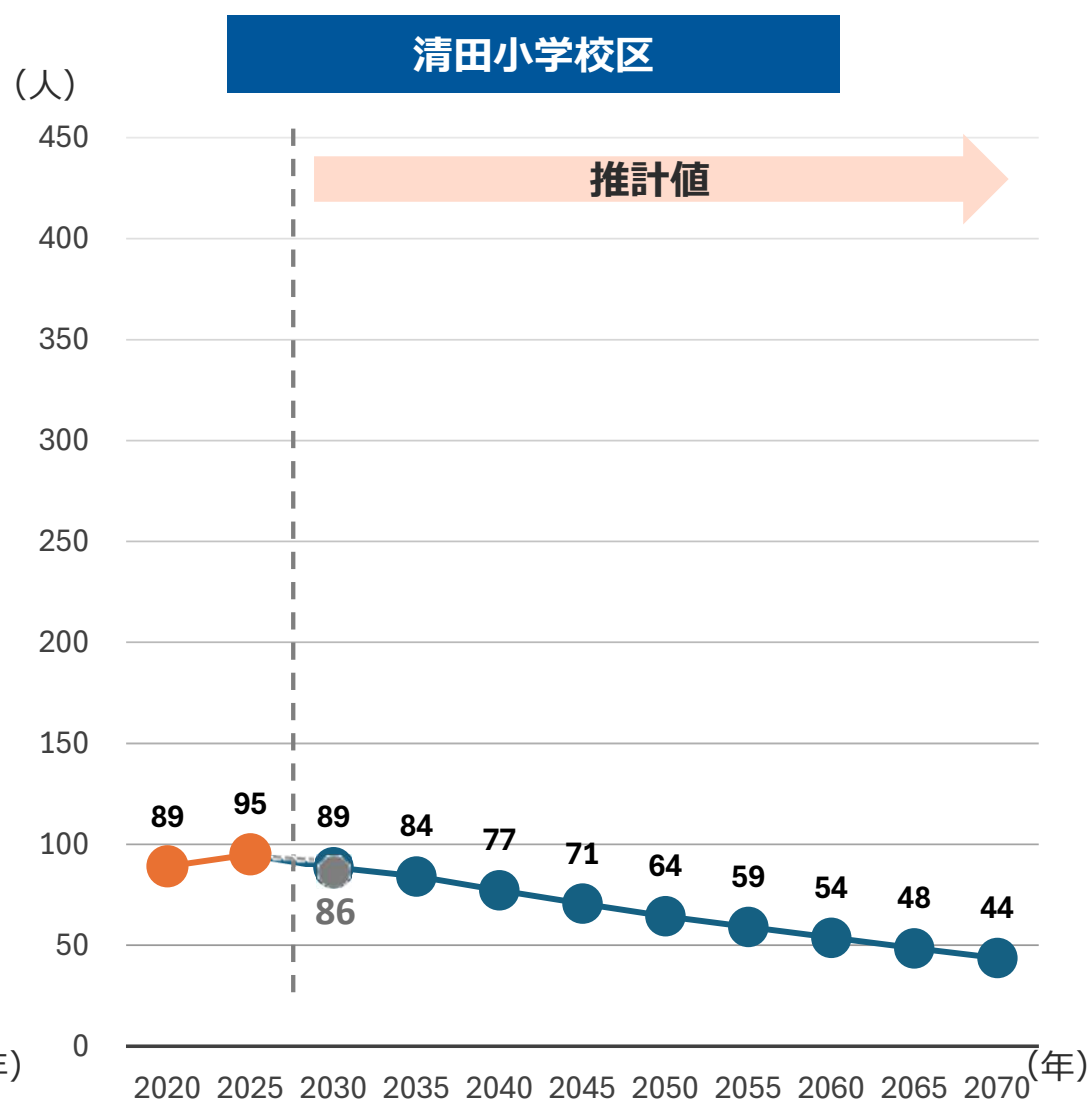
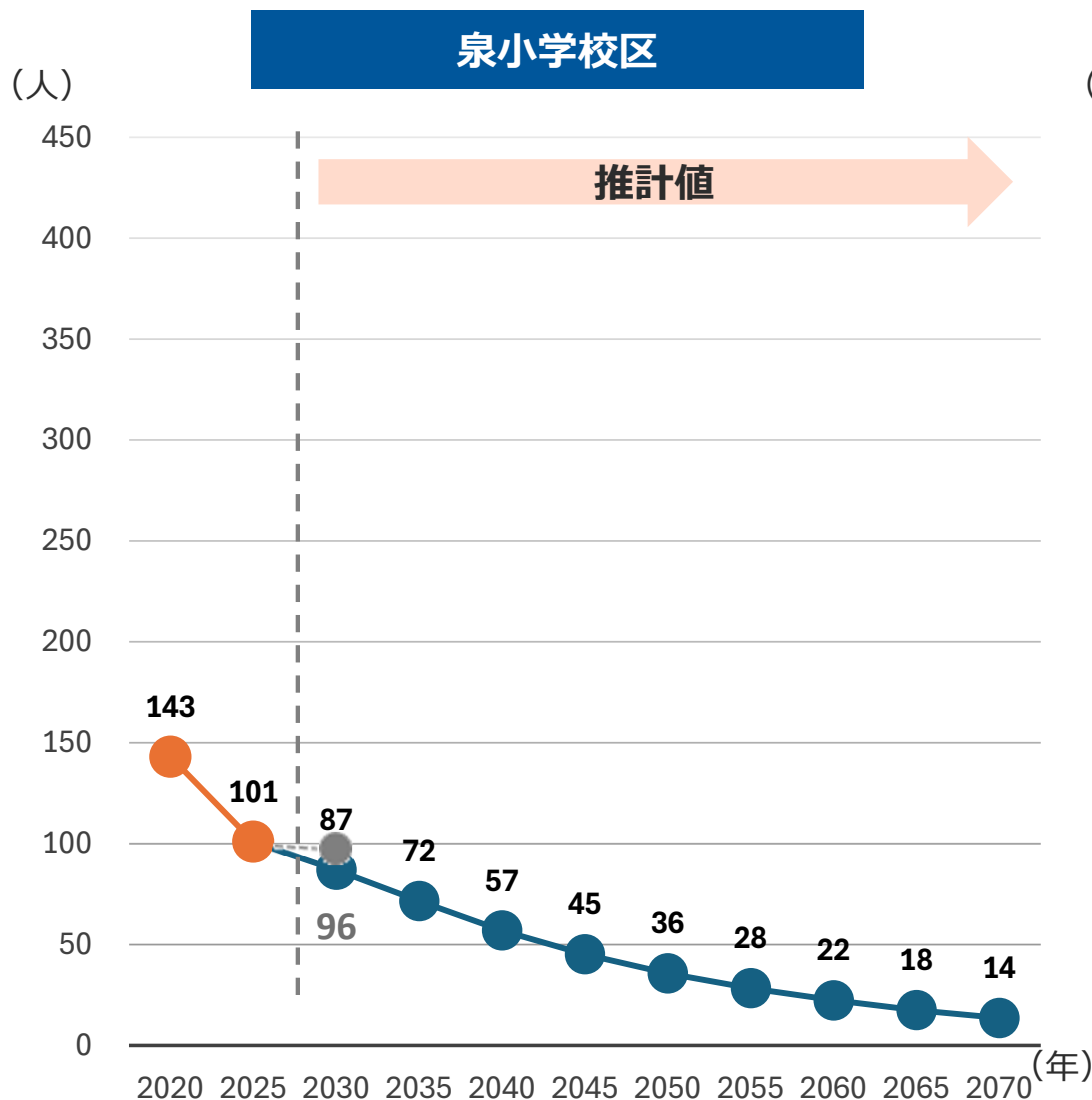
- 赤羽根小学校区では2070年時点で75人まで減少、若戸小学校区では20人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

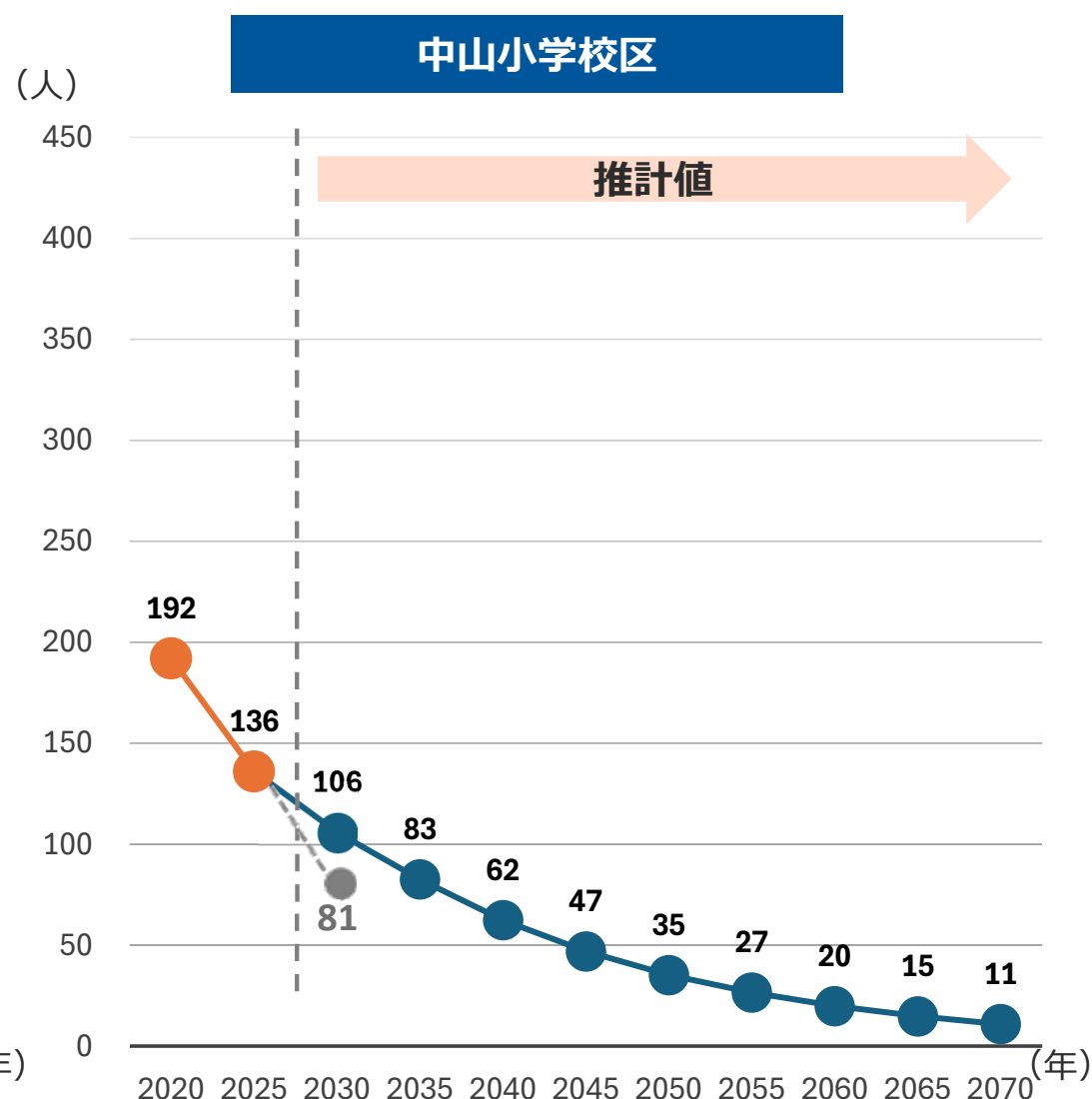
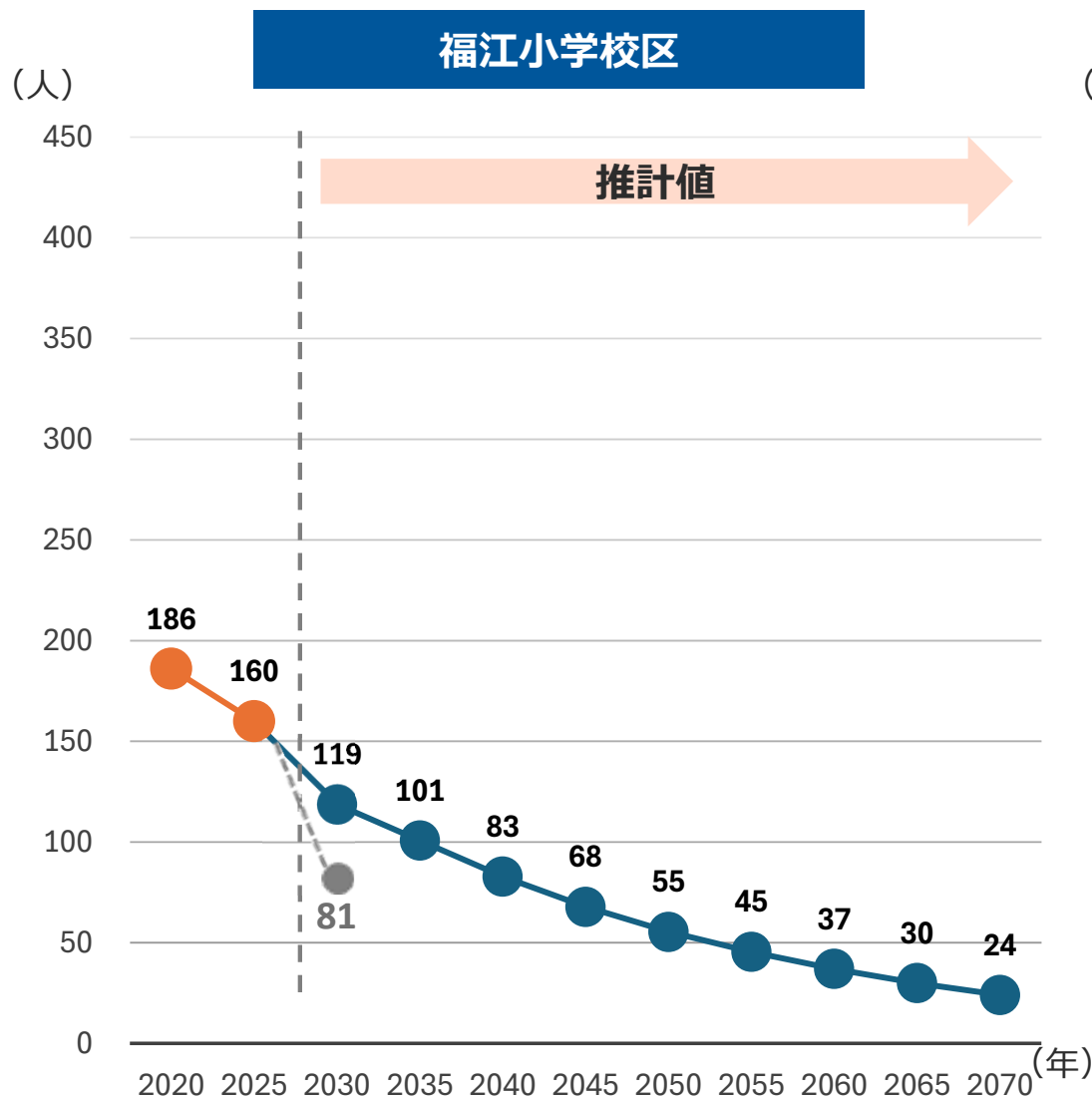
- ・ 泉小学校区では2070年時点で14人まで減少、清田小学校区では44人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

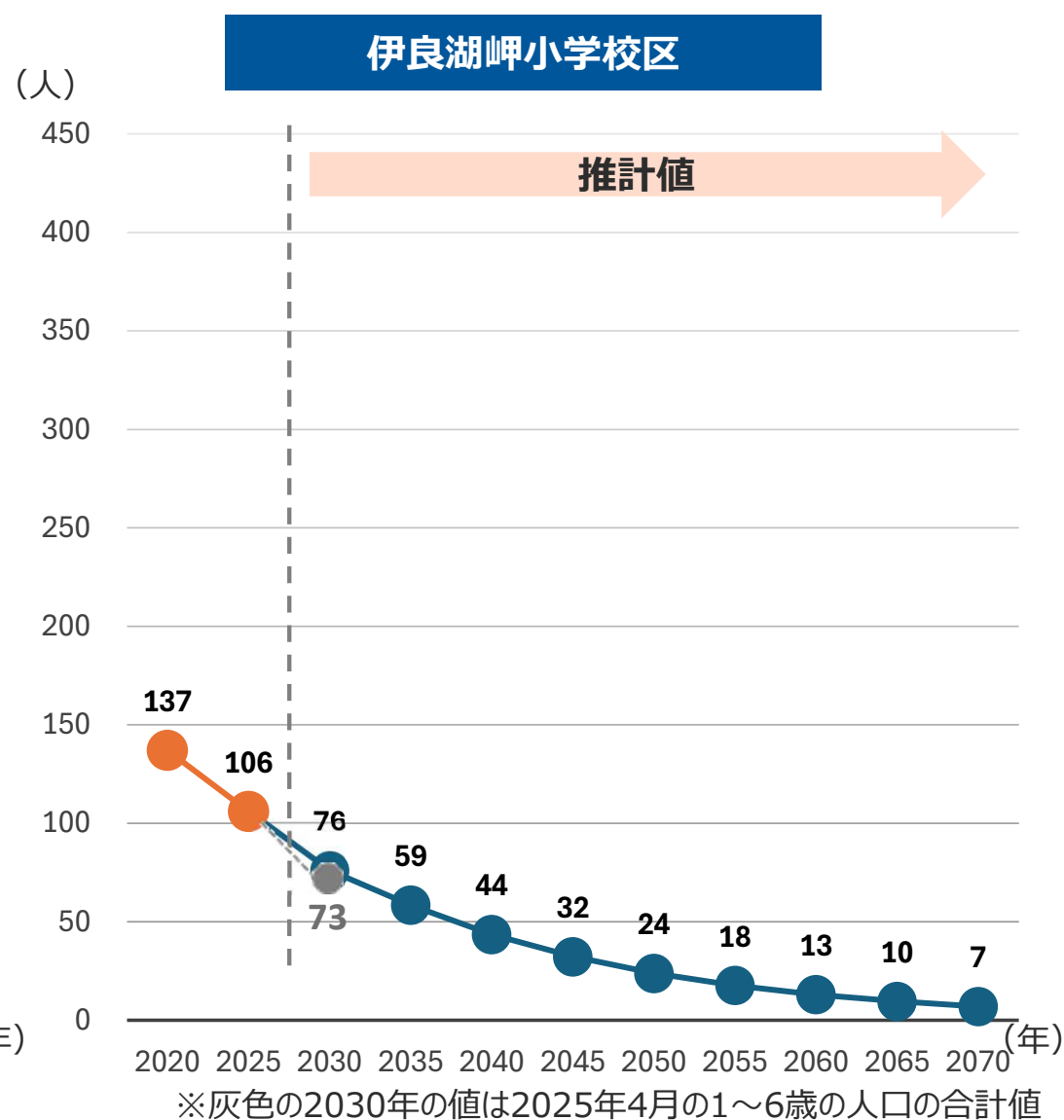
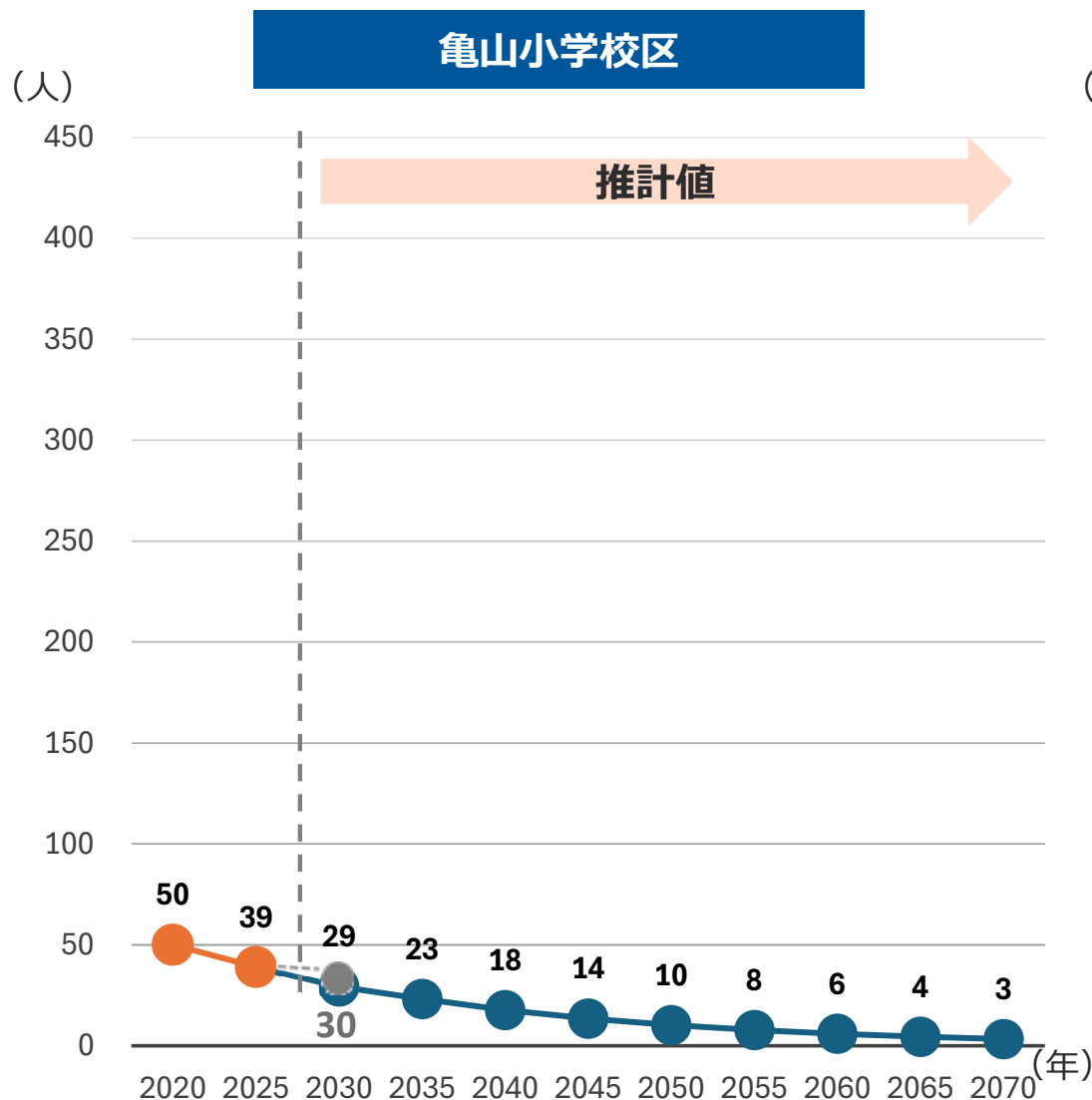
- 福江小学校区では2070年時点で24人まで減少、中山小学校区では11人まで減少する結果となった。



※灰色の2030年の値は2025年4月の1～6歳の人口の合計値

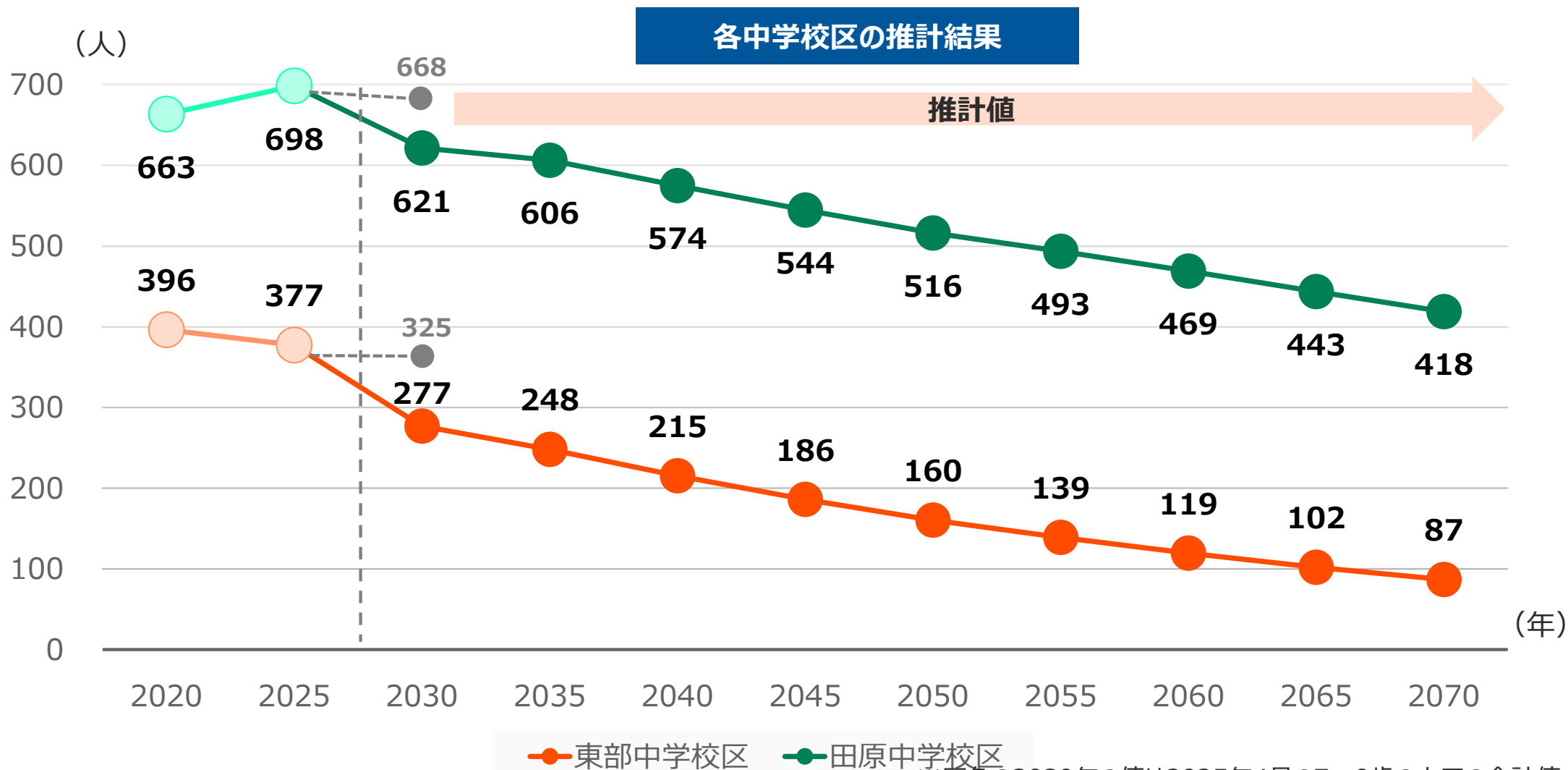
3. 推計結果 3-1. 校区別の算出結果-小学校区-

- ・ 亀山小学校区では2070年時点で3人まで減少、伊良湖岬小学校区では7人まで減少する結果となった。



3. 推計結果 3-2. 校区別の算出結果-中学校区-

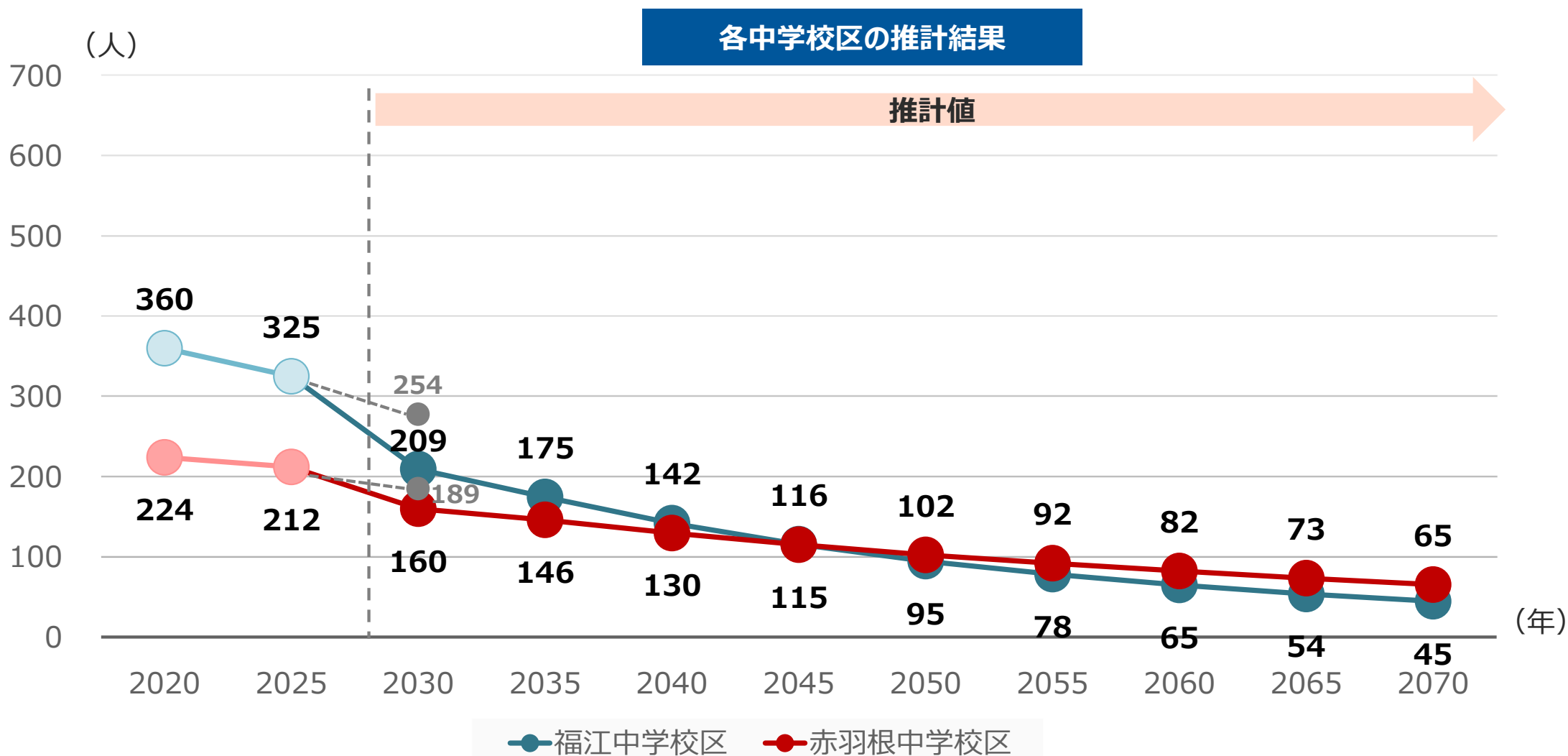
- 中学校区別の推計結果は以下の通り、いずれの中学校区でも大きな減少が生じることが見込まれる。



※灰色の2030年の値は2025年4月の7～9歳の人口の合計値

3. 推計結果 3-2. 校区別の算出結果-中学校区-

- 中学校区別の推計結果は以下の通り、いずれの中中学校区でも大きな減少が生じることが見込まれる。



※灰色の2030年の値は2025年4月の7～9歳の人口の合計値

4. まとめ

まとめ

- ・市の人口推計の値と整合する形で小学校区及び中学校区ごとの2070年までの学齢児童数及び学齢生徒数の推計を行った。
- ・いずれの小学校も学齢児童数が大きく減少する見込みとなっているが、小学校区ごとで減少する速度は異なっていた。また、推計した2070年までに児童数が30人を下回る小学校区が10小学校区となっていた。
- ・こういった学齢児童数に関する中長期的な展望を見据えつつ、施設設備の状況や子供・保護者・地域の意見も踏まえたうえで、小学校区の在り方に関する検討の必要性が高くなっている。

留意事項

- ・市の人口推計の値と整合する数値になるように算出しており、市全体の人口の推計値が実態と乖離した場合、今回の算出結果にも乖離が生じる。足許、政府はふるさと住民登録制度等の地方創生関連施策を進める方針を示していることから、それらによる社会変化が生じる等、市全体の推計値に大きな変化が生じる場合は適宜見直しを行う必要がある。
- ・これまでの宅地造成等の影響は完全に除去できない点や、今後の宅地造成等の政策動向・社会変化が生じた際に大きく推計結果が変わる可能性がある。